

日本一の チェンソーマン

去る十一月五日、桜山公園でチェンソーの競技大会、ロガーズカップが開催された。主催する NPO 法人ロガーズの代表、今井陽樹さんは全日本伐木チャンピオンシップ(JIC)の優勝者であり、来年にはエストニアで行われる世界大会に出場する。まさに日本一のチェンソーマンである。ロガーズカップには全国各地から八名の選手が集まり技術を競った。特に日本一位、二位、三位の選手が出場しており、全日本大会さながらの熱戦を繰り広げた。

チェーンソー競技(JLC)とは？

林業技術と安全作業の向上、林業の仕事を一般に広めることを目的にした競技大会で、現場で求められる技術面（効率性、正確性等）や安全面（装備、動作手順等）を求められる以下の5つの種目の点数を競います。

伐倒競技

目標に出来るだけ接近するよう、木を切り倒します。選手は切り倒す方向（伐倒方向）を正確に見定めるため、チェーンソーの照準（ガンマーク）をのぞき、よく狙って切り込みます。



接地丸太輪切り競技

地面に接する丸太を上から垂直に切り出します。チェーンソーが地面に触れないぎりぎりまで切り込むことで高得点となりますが、接地面付近はおがくずで覆われており、チェーンの位置を目視で確認することはできなくなっています。



ソーチェン着脱競技

チェーンソーの刃（ソーチェン）を外し、別のソーチェンに付け替えます。0.1秒単位で測定され、採点されます。

丸太合わせ輪切り競技

傾いた2本の丸太を上下から切り出して輪切りにします。切断面の段差の小ささ、垂直さ、切り出すスピードが競われます。



枝払い競技

丸太に差し込まれた30本の枝を切り払う速さを競います。枝の跡が5mm以上残ったり、丸太に5mm以上の深さの傷をつけてしまったら減点となります。



プロの技

選手たちが軽々振り回している様に見えるチェンソーの重量はおよそ7キロ。生後6ヶ月の赤ちゃん相当の重みがあります。私もチェンソーを扱い始めてすぐの頃は、現場まで持って上がるだけで一苦勞でした。先の見えない長い刃を正確に扱う繊細な感覚も大切になります。普段の現場作業や競技の練習で身に着けたプロの技です。

競技のこれから

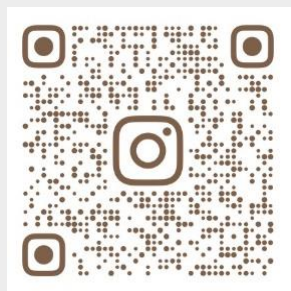
私自身チェンソーの競技大会があることは知りませんでした。しかし、今年の日本大会はNHKでも特集されて注目を集めました。全国トップクラスのチェンソー技術者が藤岡に集まっていることは、林業の担い手不足に悩む市にとって心強いことです。これからの林業界に新しい風を吹かせてくれることを期待し、応援したいと思います。

藤岡市のチェンソーマン

ロガーズカップに出場した選手の中で藤岡市在住の選手は、主催者の**今井陽樹**（ひのき）さんと**横山大蔵**さんの2名。今井さんは今年度の**全日本大会優勝者**、横山さんも**3位入賞**の実力者です。全国各地からおおよそ100名の参加者がいる大会の上位入賞者が2名も藤岡市にいます。今井さんは「ひのきや」として独立して、横山さんは森林組合の従業員として、来年4月にエストニアで行われる世界大会に向け、日々チェンソーの技術を磨いています。



ロガーズカップに参加した選手のみなさん



地域おこし協力隊の活動と日常、
チェンソーマン達の最新情報は SNS から！

長谷川 隆春

北海道出身。秋田県で公務員として林業に携わり、関心をもつ。令和4年8月に藤岡市に移住し、林業振興分野の地域おこし協力隊として現場を中心に林業、木材を勉強中。